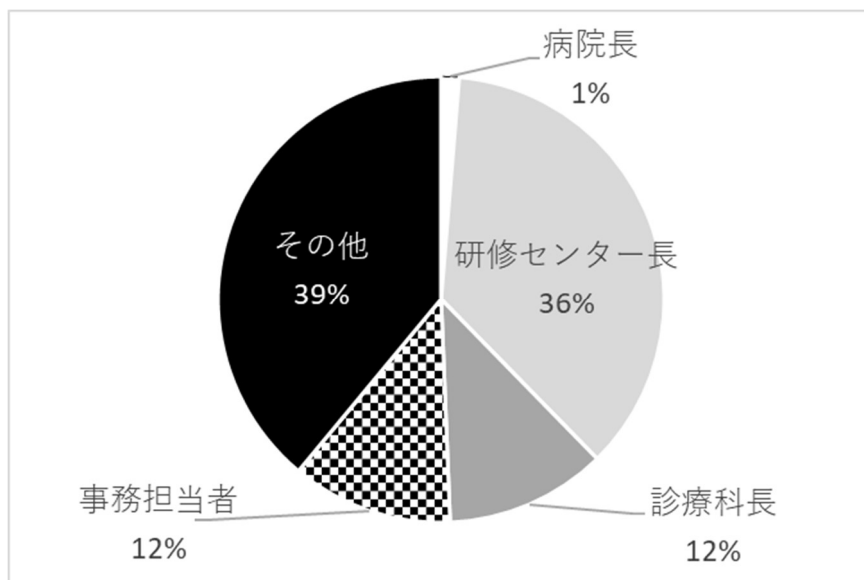


## 2020 年度 卒業生の学修成果に関する調査

本学卒業生が就職した初期臨床研修先施設に対しアンケートを実施しました。  
個別調査票を郵送し、web データ集積管理システム REDCap でご回答いただきました。

実施期間	2021 年 2 月 15 日～4 月 22 日
2019 年度就職者数	89 名
対象者数	84 名（本調査に同意した者）
有効回答数	76 名（回答率 90.5%）

### 1 回答者について

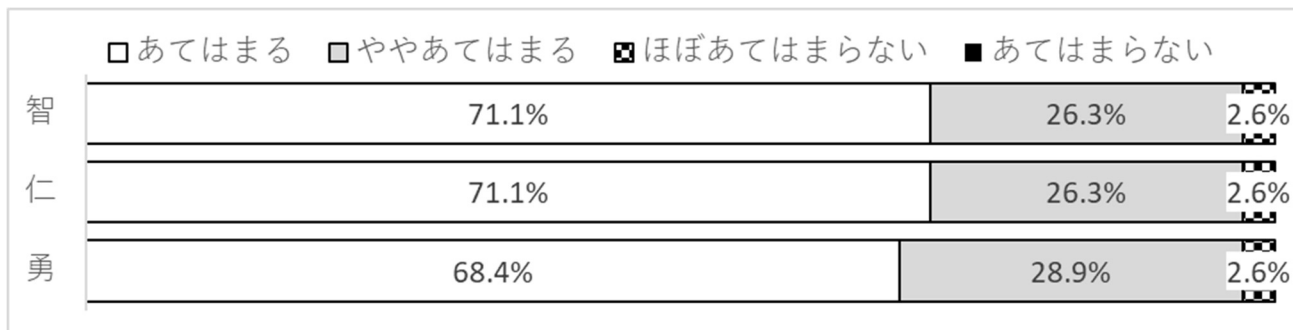


その他：医局長、指導医、病棟主任、研修委員会委員など

## 2 卒業生の学修成果について

### 2.1 本学の理念

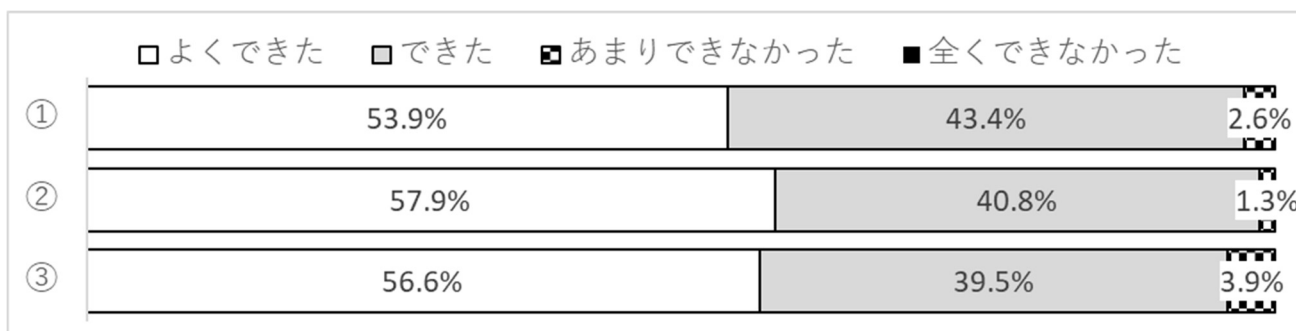
- ・「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ・「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ・「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を実践する決断力を習得している



### 2.2 本学の卒業時コンピテンス・コンピテンシー

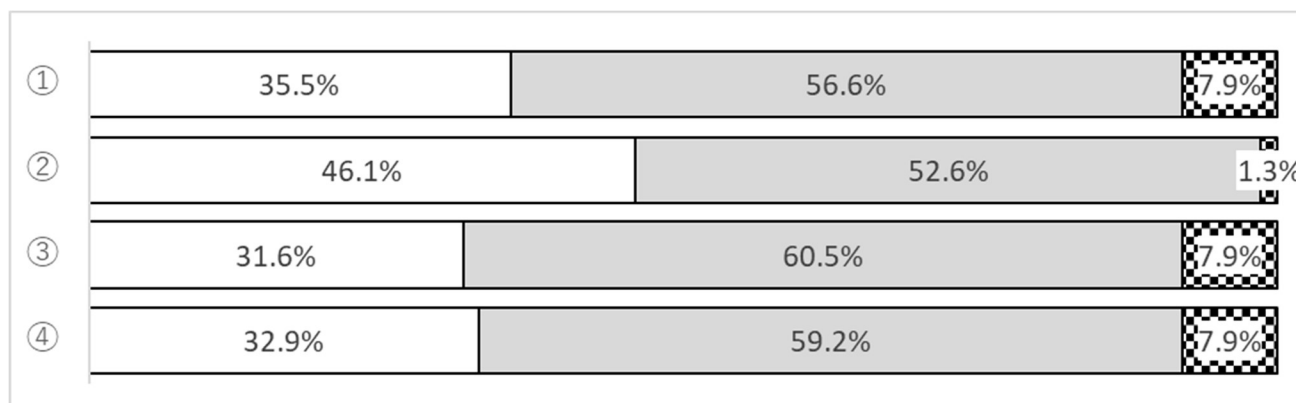
#### 【プロフェッショナリズム】

- ① 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる
- ② 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる
- ③ 高いモラルを持ち、品性のある行動をとることができる



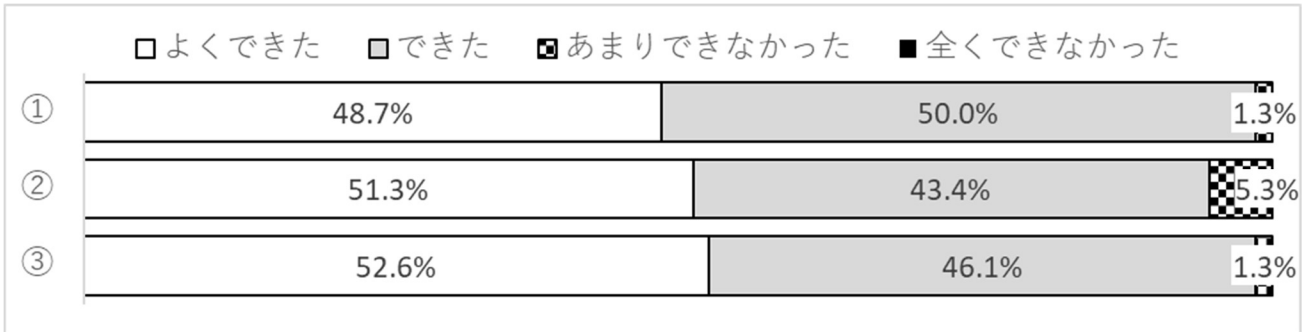
#### 【医学知識と問題対応能力】

- ① 診療や研究の基盤となる基礎医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ② 診療や研究の基盤となる臨床医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ③ 診療や研究の基盤となる社会医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ④ 医療の基盤である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実践することができる



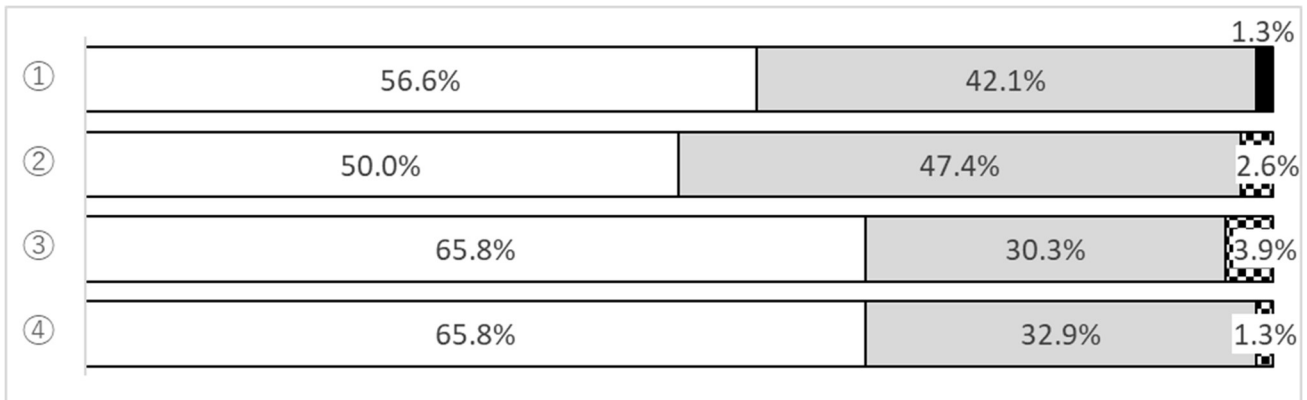
**【診療技能と患者ケア】**

- ① 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる
- ② 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる
- ③ 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる



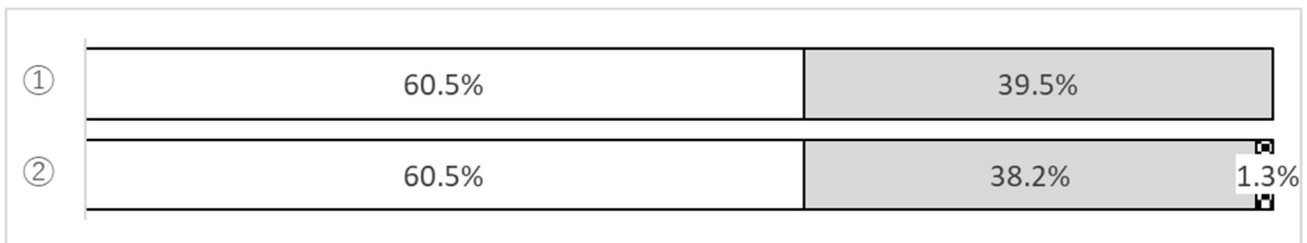
**【コミュニケーション能力】**

- ① 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる
- ② 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる
- ③ 適切な症例プレゼンテーションを行うことができる
- ④ 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる



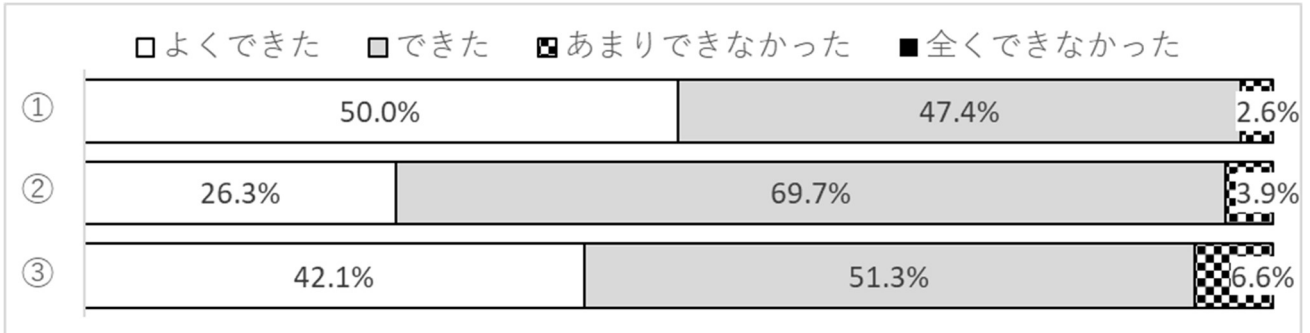
**【チーム医療の実践】**

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る



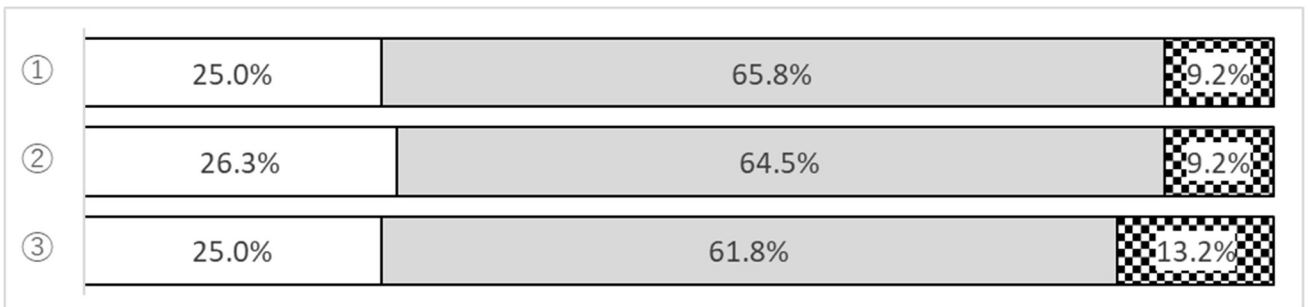
【医療の質と安全の管理】

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解する
- ② 医療事故等の予防と事後の対応を知る
- ③ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める



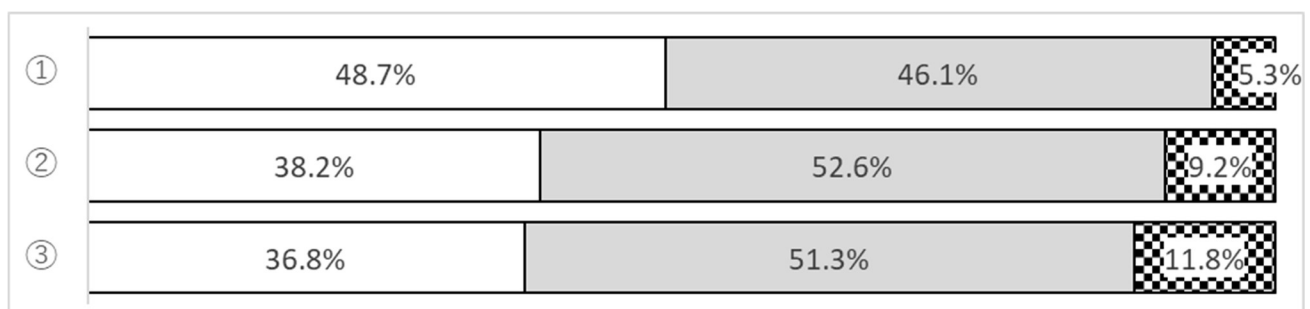
【社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力】

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する
- ② 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる
- ③ 大阪の医療の現状、課題を理解する



【科学的探究】

- ① 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にエビデンスを収集できる
- ② 科学的研究方法を理解する
- ③ 研究の意義を理解し、参加、協力できる



### 【生涯にわたって共に学ぶ姿勢】

- ① 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる



### 2.3 総合評価



### 2.4 ご意見

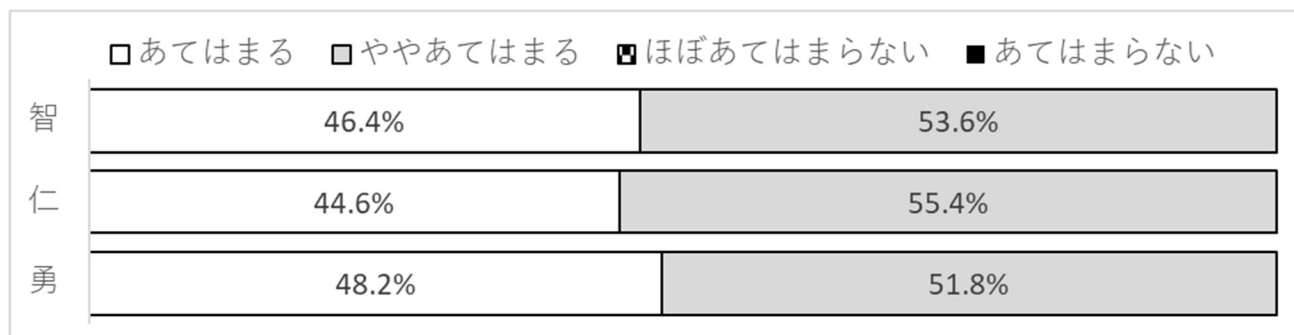
- ・大変よく頑張っていました。
- ・大変頑張って研修を終了しました。
- ・研修に付き問題は認めず、優秀である。
- ・当院の最優秀研修医賞を受賞されました。
- ・積極性もあり、素直であり、今後の成長に期待できる。
- ・提出物等も締め切りまでにきちんと提出し、たくさん頼らせて頂きました。
- ・何事も早くから取り組み、自分の中で十分理解、習得し、研修を終えました。
- ・どんどん責任感がめばえて、いい顔になってきました。これからも楽しみです。
- ・非常に優秀な医師です。カンファレンスでの発言も適切で、将来が楽しみです。
- ・最初はすこし「抜く」ことがありましたが、どんどん積極的に学ぶ姿勢になりました。
- ・診療に取り組む姿勢や自主性、コミュニケーション能力などすべてにおいてバランスよく優秀である。
- ・医師としての資質をそなえ、他者との良好なコミュニケーションも取れるバランスの取れた人物であると思います。
- ・常に冷静で、まじめに臨床研修に取り組んでいました。これから専門医取得に向け、さらなる向上が期待されます。
- ・実習にくる学生さんや後輩研修医への指導など非常に協力的で、将来素晴らしい医師になってくださることを確信しております。
- ・常にまじめに研修に取り組み、自己学習もしっかりされていました。また、2年間、学年のサブリーダーとしても貢献されていました。
- ・報告・連絡・相談ができ、また自身で対応可能な診療行為の範囲を判断し行動できており評価できる。一方で少し、消極的な診療になっていたかもしれない。
- ・積極的に診療に携わり、周囲・患者様とのコミュニケーション力について十分なレベルに達していると思う。疾患理解に対して今後もさらに深めていって欲しい。
- ・自ら積極的に学習し実践に役立てることができていた。明るい性格で、患者さんにも丁寧に接していた。病院スタッフにもいい影響を与えていただいたと思います。

- ・コミュニケーションを取ることには上手く出来ます、彼の良い点かと思えます。コロナが、広がってから複数で飲みに行ったことが発覚し注意したことがありました。その後は無いようです。
  - ・積極的に診療に携わり、診察技能、処置技能、周囲とのコミュニケーション力、ご家族へのICについても研修医として十分なレベルに達していると考えます。疾患理解に対して今後もさらに深めていって欲しい。
  - ・常に指導医上級医から学ぼうとする姿勢が感じられるのが印象的であり、後輩の面倒見もよく、見学に来られた医学生に対しても積極的に対応し、法人の意向や取り組みを理解して行動してくれている。性格も明るく前向きで、積極的に何にでも取り組んでいる。
  - ・コミュニケーションの能力は高く、上級医及びスタッフとの関係は良好だった。1年目のときだが、二日酔いの日があった。2年目になり大分落ち着いたようだが、もう少しオン・オフの切り替えができるようになってほしい。文献検索も頑張っていたようだ。今後の活躍を期待したい。
  - ・まじめに目の前の課題をきっちり行っておられました。医師だけでなく、コメディカルともコミュニケーションをしっかりとかけ、患者さんの治療に臨んでおられました。患者さんのベットサイドにもよく行っておられ、患者さんたちからも信頼されていました。学会発表も積極的に行っており、研究に対しても前向きで、今後がとても楽しみな先生です。
- 
- ・やや時間にルーズな印象あり
  - ・やや積極性に欠けていた点があった。
  - ・積極的な知識の獲得や論理的思考が苦手な印象でした。人柄はよかったです。
  - ・今後専門診療を担う医師として仕事をこなしていくことには、担当指導医含め不安を感じる。
  - ・能力的にはもっと高いところに到達することを望んでいるのであえて厳しめに評価致しました。
  - ・コミュニケーション能力があり、情報処理能力も高いと思われるが、興味の薄い診療科では積極性に乏しく、表面的な研修のみで満足していた点が不満である。また、処置の際、再確認不足が多かった事が、非常に気になった。
  - ・医学的な知識に問題はなかったが、遅刻をしない、遅刻する場合は申し送りなど関係先へ連絡を入れるといった社会人として最低限のマナーを守れないことが多々あり、一言でいうと「学生気分が抜けきれていない」。この件は、面談なども含め度々指導したこともあり、ややましになったように思う。

### 3 本学卒業生全体の印象について

#### 3.1 本学の理念

- ・「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ・「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ・「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を実践する決断力を習得している



#### 3.2 本学の大学教育についてよいと思うこと

- ・積極性のある学生が多い
- ・謙虚で貪欲な診療・学習姿勢
- ・快活な卒業生が印象に残っている。
- ・勤勉な医師を輩出していると思う。
- ・どの卒業生も自己研鑽に熱心である。
- ・やはり優秀な学生が多く、良い意味で自主性にまかせて勉強させている。
- ・大学に残って研修を行っている先生方は優しさを持っていると感じます。
- ・各研修医は、上記、智仁勇の精神をよく理解しており、臨床現場でもよく実践できていると思います。
- ・医師である前に「社会人」たれ、を守り、礼儀・作法がきちんとしており、これも貴校の教育の賜物と推察します。
- ・貴院の卒業生は優秀で明るく、前向きで協調性が高いため、卒なく働いていただいています。大変助かっています。
- ・大部分の先生が、臨床と研究への興味や取り組みにバランスが良いと思います。当院で研修される先生は、皆前向きに課題に取り組みまれており、これからも一緒にチームとして働きたい先生が多いです。
- ・一般論として貴学からこられる初期研修医のみなさんは、知識・技能・態度ともバランスのとれた方が多い。自分自身が思うに、特に臨床医として成長するためには、特に「態度」が重要であり、人間性のよい方が多いように思う。
- ・概ねよいと思います。
- ・今の教育方針をぜひ続けてください。
- ・屋根瓦式教育が整備されており、良いと思う。
- ・学外実習の全体的な期間が他大学に比べ長く、非常に良いと思います。
- ・臨床に則した実践的な実習や SSC を活用した修練の機会も増えている点

- ・このアンケートもそうですが、卒後も面倒を見ていて、感心いたします。
- ・このように貴大学卒業生のその後の評価を収集され、大学教育に活かそうとされること自体が素晴らしいと思います。
- ・本学 OB として卒業生達がより良い研修医となるように今後も頑張ってください
- ・研修センターを中心にきちんと色々な面でフォローされている。
- ・研修医の希望する科をローテート変更できるため、モチベーションの維持がしやすく、診療に対する熱心さを維持しやすい。また 1~4 コースまで様々なローテートがあり、特に 1 コースで大学外施設での研修と研究機関である大学の両者を経験できるのはメリットと思う。

### 3.3 本学の大学教育について改善すべきと思うこと

- ・興味ある症例には熱心ではあるが、興味の薄い症例には不熱心なところがある。上記、仁に関しては少し不十分なのかもしれません。
- ・初期研修において制度の問題はあると思われるが医師としての職業人としての意識にかけて学生の延長のような感じが抜け切れていない。本学の学生に限らずでは有りますが。
- ・ゆとり教育の影響なのか、どこの大学も、良い意味で穏やかで素直な先生が多いです。自分に関係なくても急変があったら覗きに行っちゃう様な昭和的な若者が激減したように思います。皆さんクレバーで要領が良いので、医師としての最終到達は、昭和的な研修と同じところに達するのですが、少し寂しいです。これは私たち指導者側が時代に即して意識改革すべきところですね。大学教育には改善すべきことはありません。
- ・もう少し内科の魅力がわかるような教育をしてほしい。
- ・学生の間からもっと研究に関わる機会を増やしても良いと思う（特に臨床分野）
- ・厳しくするところは厳しくすべきであると思います。義務を果たさず、権利を主張する学生には、厳しく接することも大切だと常に思っています。
- ・診療・研究・教育の 3 点が大学に求められているが、3 点を兼任することは事実上不可能と思う。教育であれば選任医師を設けたり、評価して貰えるような待遇が希望される。
- ・診療科によって、ローテートする臨床研修医の人数に差があるため、教員が医学部学生へ直接関わる時間や、時間を捻出する苦勞に差があるようである。各診療科の年間実習医学生数 + ローテートする臨床研修医数の合計 / 各診療科の教員数 を算出して、検討する必要があるのではないだろうか。
- ・コロナ禍でも積極的に参加できるようにしたい